



2012/3/19  
第 35 号  
(24 年 3 月号)

# しののめ

長野県総合教育センター通信

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail [kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp](mailto:kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp)

情報モラル教育の実践を ～すべての学校で、すべての先生が～

情報・産業教育部長 小林 晴夫

先日久しぶりに電車に乗り、周りを見ると乗客の8割がケイタイを操作していました。必要最低限の携帯電話の機能知識しか持ち合わせていない私にとっては驚きでした。現在、ほとんどの高校生はケイタイを持ち、日常生活で多用しています。購入してから短期間に多機能操作マニュアルを理解し、吸収する。その知的好奇心の旺盛さはみごとです。今後スマートフォンなど携帯情報端末の普及により、ますます情報化が進み、児童生徒の情報活用能力は、加速度を増すと思われます。一方でそうした情報化社会におけるコミュニケーションの基本的なルールやマナー、情報化通信技術の安全で適切な活用など、情報を活用する場面での基本的な考え方や態度を育てるためには、子どもたちの社会性が身につきはじめる小学校から中学校・高校と発達段階に応じた「情報モラル」学習の必要性を痛感しています。



本年度、当情報・産業教育部における校内研修支援事業は、県内小中高特別支援学校 21 校でした。(2月末現在)内容は「情報モラル」に関するものが主で、対象は先生方や児童生徒、保護者併せて 2,994 名でした。終了後飯山市の小学校の先生から「教材を提供していただきありがたかった。今回の研修を参考にして、自分でも授業ができるようにしたい。」、飯田市の中学 3 年生からは「私たちはさらにインターネット、携帯を使う機会が多くなってきます。その中で、自分の身を守り、正しい使い方を学び、今回学んだことを生かして生活していきたいと思います。」との感想をいただきました。新年度を機に、新たにケイタイデビューをする生徒がいると思いますが、正しい情報モラルや人権感覚を備えて生活してほしいと願うものです。

来年度の情報教育研修講座では、「情報モラル教育の実践をすべての学校で、すべての先生が指導するために」を目標に、従前の先生方自身の情報モラル研修から一歩進んで、校内研修会を実施するための実践力を身につける講座を開設します。先生方の来所をお待ちしております。



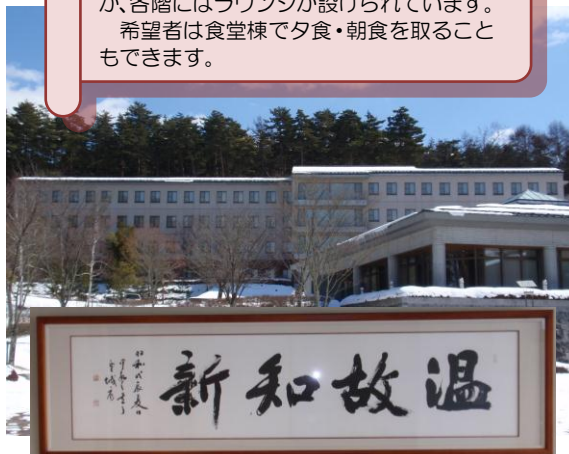
宿泊室



浴室

## 知新寮の風景

総合教育センターの宿泊棟。100 名まで宿泊することができます。各部屋には机が、各階にはラウンジが設けられています。希望者は食堂棟で夕食・朝食を取ることができます。



交流室



ラウンジ

## うごめく良心

総合教育センター所長 諏訪繁範

教育とは、様々な仕掛けをして「待つこと」であると常々考えてきた。内に秘めた力を頼りにひとたび芽吹くと、その方向に勢いよく枝を伸ばしていく生徒たちの清々しい姿を身近で見えてきた。そこには確かな成長と期待が満ちていた。しかし、時代は待っていてくれるほど寛容ではなくなってきてしまっている。現代社会は、費用対効果やスピードを求め、待っていてはくれない。どこを見ても促成栽培花盛りである。携帯電話しかり、メールしかり。即応してくれなければ、いらぬ思いを抱かせる。

ゆるる良心が疑念を生む。

「最近の教育は農業的である。もっと林業的にならなければだめだ。」と言ったのは、ドラマ「北の国から」で有名な劇作家の倉本聰である。一年で収穫ができてしまう農業ではなく、立派な木材として使えるようになるまで何十年とかかる林業こそが、あるべき教育の姿だということなのだろう。いずれにしても、肥料も水も、さらには太陽も不可欠である。豊かな収穫を得るには豊かな土壌があってこそである。成長環境を整えることはあっても、根の張り方にまで、枝ぶりの良し悪しまで、手を加えていいものなのか。

かつては同一規格が重要視され小品種多生産であり、それも短期間での大量生産が求められた時代が、今や多品種小生産の時代である。経済や価値観のグローバル化が進むが、日本製品のガラパゴス化も話題になっている。地球人口が爆発的に増加し、遠くない将来、地球が養うことのできる限界を超えとも予想される。食糧危機も現実視されているのに、生きるに不可欠な「食」までが大きく変容してきた。

教育の場では、点と線をつないだ平面的取組から立体的な取組への変容が、組織としても個としても求められる。「学び」の場としての学校が過大に評価されているにしても、子どもたちと直接かかわりをもつ教員ひとり一人への期待には際限がない。結果への期待に対して、痛いほどの厳しい視線を感じながらも、うごめく教員としての良心がある。

内村鑑三が著書「デンマーク国の話」の中で、かの“Boys, be ambitious.” で有名なクラーク先生を紹介しながら、「先生になる人は学問ができるよりも学問を青年に伝えることのできる人でなければならない。」という言葉の重みと深さを感じている。

この文章は、メールマガジン「教育ながの」4月号(平成24年3月配信)に掲載されたものです。

# 研修講座探訪

## 【産業教育教材研究と指導法】

2月17日(金)実施(45名受講)

2月17日(金)「産業教育教材研究と指導法」講座を開講し、産業教育長期研修(農業・工業・商業)と産業教育教材開発研究(農業・工業・商業・家庭)の1年間取り組んだ研究成果発表から、産業教育の充実及び授業改善について研修をしました。

工業科の長期研修は、「射出成形金型の設計・製作」をテーマに発表を行いました。学校で使用している工作機械を用いて金型を製作することと、センターにある射出成形機に取付けることを条件とした、プラスチック成形金型の製作についての研究であり、課題研究など授業で活用することができ、今後実践していきたいという内容でした。

また、商業科の長期研修では、「データ処理能力から問題解決能力の育成」をテーマに、科目「情報処理」の「思考力」「判断力」「表現力」を育成する観点から補助教材の研究・開発に取り組み、作成した教材を活用した授業は、生徒の興味・関心が高まり主体的に取り組む姿勢が見られたとの発表でした。

産業教育教材開発研究では、農業科と商業科がCMSであるネットコモンズを利用した、教育・学習支援システムの活用についての発表があり、学習コンテンツの作成と、インターネットを通じた教材の共有化および相互活用によって、授業の改善・充実をすすめられるという内容でした。特に商業科では「Web 問題作成ツール」の紹介があり、ドリル問題を簡単に作成し、正解率などの学習結果をリアルタイムに把握できるものでした。問題内容を変更することで商業科に限らず他の教科にも利用できる画期的なツールでした。家庭科では、ICTを活用した教材で、献立作成を視覚的に行うことのできるデジタルメニューカードの作成やCADソフトの操作を効率的に習得できるデジタルテキストの発表でした。すべての科の発表は、生徒に「わかりやすく」そして「効果的」な教材の提案であり、その教材を「共有」し、活用していくことが、今後の専門教育の充実と発展につながるということを確認した講座となりました。

### 〈受講者の感想〉

- ・他教科の先生方の取り組みに刺激を受けました。
- ・他の教科の様子も知ることができ、今後の教材研究の意欲がわきました。
- ・他教科と連携した教育内容も考えられると思った。
- ・普通科を含め、他学科との共有性や乗り入れの大切さを感じた。



# 研修講座探訪

## 【射出成形技術と金型】

1月19日～20日実施（5名受講）

1月19日～20日の二日間、「射出成形技術と金型」講座が開講されました。株式会社Y P K千坂敏男様（一級成形技能士）を講師にお迎えし、射出成形加工の概要や射出成形機の取り扱い、製品製作のための射出成形条件の設定方法などについて講義と実習を行いました。



射出成形機を含めたプラスチックのリサイクルシステムを導入して一年が経ち、生徒実習では金型の交換作業やペットボトルを利用したリサイクル製品の製作など行っていますが、今回の研修講座では、射出成形加工法と「金型」の製作方法について理解することを目的としま

した。金型の製作は、プラスチック製品の設計からはじまり、金型加工、射出成形機によるプラスチック製品の成形加工という「ものづくり」の一連の過程を体験することで、生徒の実践力の向上を目標とするものであり、工業高校で取り組んでいただきたい内容です。講師の方から製造現場の事例と併せながら、プラスチックや射出成形加工の概要から、プラスチック製品を成形するための「温度」「圧力」「速度」などの各種項目の条件設定や金型の構造について、講義をしていただきました。実習では、200kg 近くある金型の取り付け方法、前述の3つの条件設定、良質なプラスチック製品を成形するためのポイントなど体験をとおして学ぶことができました。



### <受講者の感想>



- ・具体的な実習ができ、授業へ活用する可能性を感じた。
- ・研修内容を生徒に伝えていきたい。
- ・課題研究で金型づくりに取り組めたらおもしろい内容であった。
- ・学校にある機械で十分加工できることを知り、前向きに取り組んでいきたい。

## 実践研究 報告

今年度の実践研究は、14分野で開講し、20名が受講されました。一人ひとりが各自の教育課題に対して研究を進め、その成果を2月の発表会にて報告し、1年間の研究を終了しました。



実践研究は年間5日間という短期の研究です。受講者はセンター以外でも継続的に研究を進めていたことと思います。今年度も新学習指導要領を意識した授業展開に関する研究が多くあり、これからの日々の授業実践等において参考となるものでした。

<研究テーマ一覧>

分野	テーマ
国語	「読むこと」領域における言語活動のあり方はどうあったらよいか
社会	日々の授業の中で、思考力・判断力・表現力を高める社会科学習はどうあったらよいか
算数・数学	整数の性質
	数学Ⅲの教授法の研究
理科（化学）	科学的事象を主体的に追及し、考えを深める喜びを体感させる理科授業のあり方
理科（生物）	事実に触れ、友の見方や考え方を理解し、自然を読み解く児童の育成
	植物の減数分裂と花粉四分子における小胞子の配置の観察
理科（地学）	科学的根拠を持って自分の言葉で説明しあい、お互いにわかり合える授業づくり
	地域素材の教材化
小中英語	児童がコミュニケーション活動に意欲的に取り組むための指導のあり方
音楽	仲間と関わり合いながら主体的に学べる鑑賞の授業はどうあったらよいか
	「感じる」「できる」「わかる」「味わう」を意識した題材展開の在り方
図画工作・美術	生き生きと自己表現できる図工・美術のあり方
	生き生きと自己表現できる美術の授業のあり方について
技術	工夫し創造する力を伸ばす学習
図書館教育	調べ学習のスキルを身につけるための指導のあり方
情報モラル	高等学校における「情報モラルガイダンス」の教材の作成
情報教育・ICT活用	校内連絡システムの構築
	授業で活用するマルチメディア教材の作成
健康相談	心因性要因を持ち保健室を来室する生徒への養護教諭の支援に関する研究



※ ホームページに「研究成果の概要」を掲載してあります。



若い先生方も多く受講されていきました。この研究を来年度以降も継続してさらに発展させていただくことを願います。来年度は16分野で受講者を募集します（詳細は4月送付の研修講座案内を参照）。積極的な応募を期待します。

## —— 研修講座を振り返って ——

### 教職教育部が1月、2月に実施した研修講座から、2講座を振り返ります

#### ◇高等学校初任者研修「冬期宿泊研修」

1月16日（月）、17日（火）の1泊2日で、高等学校初任者研修「冬期宿泊研修」が行われました。初任者全員が、「教科指導」または「生徒指導」に関わる課題について、1年間取り組んできた成果と今後の課題を発表しました。1人20分の持ち時間の中で、プレゼンテーションソフトを用いた発表と、初任者同士の質疑応答を行いました。「他の初任者の発表から多くのことを学ぶことができた」、「他校の実践例を現場に持ち帰って活かしたい」といった感想が多数見られ、充実した研修となりました。

また、初日の最後に、体育センターの田玉勝己専門主事から、「部活動における体罰防止」について講義していただきました。初任者は、体罰を行うことのないよう改めて気を引き締めて聴いていました。

2日目の終わりに、今年度の高等学校初任者研修の閉講式を行い、教学指導課の北澤潔指導主事、当センターの諏訪繁範所長が挨拶を行い、1年間の研修を締めくくりました。

<受講者の感想から ～1年間の初任研を振り返って～>

- ・ 来年度は担任になる予定なので、研修で学んだことを忘れずに、周囲から信頼されるホームルーム経営をしていきたいと思います。
- ・ 研修では、様々な知識をインプットすることが多かったが、今後はそれらをいかに現場に活かすことができるのか、つまりアウトプットできるかが課題だと思います。
- ・ ほかの初任者の、もまれて成長し、失敗したら工夫し、という姿を見て、「私も成長しなければ」と、よい刺激になりました。



課題研究発表会

#### ◇高等学校10年経験者研修「共通必修研修VI」

2月16日（木）に高等学校10年経験者研修「共通必修研修VI」が行われました。午前中は、当センターの諏訪繁範所長が「ミドルリーダーとしての期待」と題して講話を行いました。常に「生徒のために」というスタンスを持って、学級指導、教科指導、生徒指導等を行うことの必要性を話され、それが教師自身のためになることを理解しました。その後、東京女学館大学の黒川雅子准教授から「教育の意義と教員の協働性」と題した講義があり、学校で行う教育は公教育であり、家庭で行う私教育とは違うことを踏まえ組織における教師の役割について講義された。職員の協働性については、学校の職員間だけでなく、保護者や地域との協働の必要性を述べられました。午後は教科を中心として1グループ6～7名で構成した分科会で研究協議を行いました。ひとりひとりが、自分の研究テーマについて成果と課題を発表し、質疑応答などによって理解を深め、その後の全体会で各グループでの協議内容を報告し、成果と課題の共有化を図りました。

<受講者の感想から>

- ・ 公教育において責務を果たさなければいけないということを認識し直すとともに、学校組織の一員であるということを常に意識していかなければいけないと思いました。
- ・ 各学校の先生方の話を聞いて、自分の学校と共通する部分もあり、新しい発見もあり、情報交換ができて、本当に有意義な研修ができました。いろいろな学校があり、生徒がいても、同じように考え、仕事に熱意を持っていることが分かり、やる気が出ました。
- ・ 10年経験者研修について、どの研修も有意義で、自分自身の教師としての資質能力を考えることができました。



グループ協議（全体会）

気づいて支援しよう！ 通常学級にもいる

ビジョン



# 視覚機能に問題のある子ども

学校では5m先のものがどれくらい見えるかという「遠方視力」を測定しています。しかし、学習には、教科書など近くを見る「近方視力」や、視野の広さも必要です。また、最近LD児の困難さに「視覚機能」が関係していることがありとされています。

## 【視覚機能とは】

- 入力機能・眼球運動…眼筋をコントロールして眼球を動かす力
  - ・両眼のチームワーク…両眼を寄せたり、離したりする眼球運動
  - ・調節機能…水晶体の厚みを変え、ピント合わせをする力
- 処理機能
  - ・形の捉え…見ている線や点を合理的にとらえる力
  - ・空間知覚…3次元空間の中で、自分と物や地面等の位置関係をイメージする力
  - ・目と手の協応…目でとらえた形や位置の情報を手や体の運動に連動させる力

## 【こんな子はいませんか？】

- ・板書が写せない。
- ・探し物が見つけれない。
- ・教科書がうまく読めない。  
(逐次読み・読み飛ばし・勝手読みなど)
- ・定規や分度器の目盛りがうまく読めない。
- ・球技が苦手。
- ・図形問題が苦手。
- ・字がマスからはみ出す。
- ・近くの物を見続けると疲れる。
- ・見る作業を続けると集中力が続かない。
- ・宿題などに時間がかかる。
- ・目をよくこする。
- ・文字を覚えるのが苦手。
- ・似た字を読み間違える。
- ・絵を描くのが苦手。

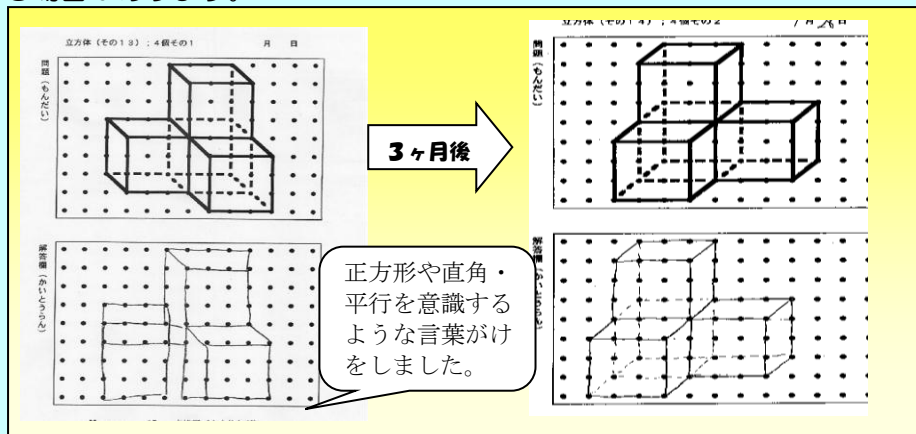
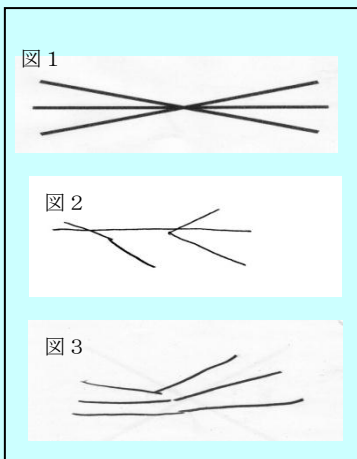
視覚機能に問題があると、左記のような実態を示すことがあります。

板書を写さなかったり、定規で測ったり時計を読んだりする問題に取り組まなかったりするのを、「学習意欲がない」と捉え、「頑張れ！」と励ます前に、「視覚機能に問題がないか」子どもの実態をとらえる必要があります。

眼球運動や両眼視に問題がある子どもでも、数カ月のトレーニングで改善し、読みの苦手さが軽減したケースもあります。

また、「形の捉え」の面では、図1を図2や図3の様に写す子どもは、見本があっても、正しく捉えられず、文字や図形を書いたり覚えたりすることが難しくなります。図形の合理的な捉え方を、わかりやすく言語化

して提示することで、だんだんに合理的な捉え方ができるようになる場合があります。



## 【目に問題がある事に気づいたら！】

- 医療面の問題がある場合は、まず眼科的な治療及び適切な眼鏡使用をしましょう。
- 本人にとって見やすい環境を整える事が大切です。(見やすい色・大きさ・フォント・行間・座席の位置)
- ビジョントレーニングが有効な子もいます！

**正しいアセスメントをし、適切な支援を早期に開始しましょう！**

**長野県総合教育センターの教育相談もご利用ください！ (Tel 0263-53-8805)**

## 長野県総合教育センター 第2回評議員会 開催

2月17日(金) 13:00～ 第3研修室

長野県総合教育センター第2回評議員会が当センターで開催されました。

### ◇評議員の方々の所属団体◇

長野県小学校校長会、中学校校長会、高等学校校長会、特別支援学校校長会  
国公立幼稚園長会、長野県産業教育振興会、長野県PTA連合会  
高等学校PTA連合会、長野県市町村教育委員会連絡協議会  
地域住民代表(片丘南内田区)、大学人代表、企業人代表

今回の評議会では、当センターの平成23年度事業の説明や事業仕分けについての報告を行った後、評議員の皆さんから研修事業などに対する意見、要望を出していただき、活発な協議が行われました。



### ◇評議会でも出されたおもな意見・要望

- 教育センターの存在意義について、自信をもって語り、県民の理解を得てほしい。
- 教員にとって研修により資質が向上した面は大きな成果としてある。その成果を分かりやすく打ちだしてほしい。
- 評価の観点を民間の方にも理解してもらえるような表現にしていく工夫が必要である。
- 教員の研修の基となる当センターの役割を幅広い視野から説明することを望む。
- 県民への啓発活動は必要な時代になってきている。センターの研修は、現場の学校教育においてウェイトの大きく、太いものになっているので、これからの事業展開に期待する。
- 事業仕分け等のある中で、様々な工夫・改善を行っていることに感謝する。当センターは教育センターとしての重要な役割を果たしているので、学校においても、一層の活用を図ってほしい。
- 学校と社会の願いを実現するセンターであってほしい。
- 親と先生に自尊感情が育てば、子どもも自信をもって生きていけるようになる。先生を大事にしてほしい。

頂戴したご意見を、来年度の事業に生かし、学校の児童生徒の力をより伸ばせるよう努力して参ります。



# 平成24年度総合教育センター ここが変わる!



## 研修事業

### ○指定研修 **リニューアル**

キャリアステージに応じて、教職基礎力、教科指導力、生徒指導力、課題解決能力及び学校組織マネジメント能力等の育成・充実を図る研修を実施する。特に初任者研修については、2年次、3年次と段階的に研修を実施していく。

### ○希望研修

#### <教育課題別研修>

#### **新規** 教務主任のための学校組織マネジメント

「教務主任の心得と役割」、「学校づくりとリーダーシップ」、「学校組織マネジメントの実際」の内容で実施する。

#### **新規** 作問研修（中学校国語、中学校数学、高校数学、高校英語）

全国学力学習状況調査や大学入試等の問題作りに関わる講義や演習を通して、生徒の学力向上につながる教科指導力の向上を目指す。

#### **新規** 放射線の理解と学校の安全管理

福島県の小学校における放射線教育の取組や、原発事故発生時の災害対策についての講義を基に、放射線教育や学校の安全管理について考える。

#### <教科等研修> **新規** 放射線と素粒子の科学 **新規** 実践！総合的な学習の時間 等

#### <情報教育研修> **新規** 情報セキュリティ

#### <産業教育研修> **新規** キャリア発達を促す進路支援

#### <生徒指導研修> **新規** 社会性を育てる SST **新規** 実践！指導に生かす事例研究(小・中・高別)

#### <特別支援教育研修> **新規** 子どもと築く豊かなコミュニケーション **新規** キャリア教育の視点で授業を作る

#### **新規** 「チャレンジしのめ塾」の実施(8/25 土)

児童生徒、保護者、地域の皆様、県民に、センターの施設や研修の様子を知っていただく。

## 調査研究事業

#### **新規** 「センター研究発表会」の実施(2/22 金)

県内外の教職員対象に、センター研究調査の成果を発表する。

#### **新規** 算数・数学、国語、理科のチャレンジ問題、クリア問題の作成、配信(センターホームページに掲載中)

## 教育相談事業

### ○ 校内研修支援 **リニューアル**

センター専門主事が各学校の研修を支援する。(例「言語活動を取り入れた教科指導」「数学的活動を生かす授業づくり」「外国語活動入門」「発達障害のある子を支える校内支援体制」「情報モラル教育」等) 事前から見とどけまでをパッケージとした支援を行う。

#### **新規** 「高等学校校内研修サポートパック」

県立高校の、原則として新規採用後3年目までの教諭を対象に、学習指導、生徒指導等を課題とする校内研修を実施する高校に対し、支援及び助言を行う。